

# ピアノが弾けた！

浦和市中心公民館での実年音楽教室第一期終了

戦中・戦後、ピアノを学びたくても学べなかった世代。浦和市在住で、50才以上の初心者という条件で実年にピアノ教室の呼び掛けをしたのは、昨年5月。30名の定員に135名の応募者があって、ピアノグレード別にくじ引き・開講式があったのが、6月2日だった。幸運にもくじに当たった30人の方々が、昨年12月23日、修了式を迎えた。一人の落後者も出ず、生まれて初めて楽譜の読み方から始めた方まで、たった24回のレッスンでよくぞここまで弾けるようになったと思うほどのピアノ演奏を、披露した。黒一点の管野繁男氏は、この間NHKよりずっと追跡取材を受けるなど、話題の多かった一期生であった。これで終わりにするには残念と、この1月から二段階クラスを続行させることになった。受講生の方々の感想文をここにご紹介しよう。

尚、浦和市中心公民館の実年音楽教室第二期生の募集は、今年の5月に行われる予定である。

## 「発表会を終えて」

今橋喜代子

先生から発表会で弾きたい曲があったら、むづかしい曲もやさしくアレンジして下さいと云うことで、その時私はショパンの「別れの曲」を弾いてみたいと思いました。

今思うと初心者の私がいかに大胆な考えであったと思うのですが丁度やさしくアレンジした楽譜が家にありましたので早速練習を試みました。でも左手の伴奏と右手がうまく合いません。無理かしら？と思ったのですがその時はまだ日にちが充分にあるので練習すれば出来るのではないかと考え、思い切って先生に楽譜をお見せし相談致しました。先生はその楽譜をご覧になって、早速演奏して下さいました。

その先生の演奏を聴いて、これは私にはとても2、3ヶ月で弾けるものではない、と諦めました。次に選んだのが私の好きな曲「アルビノーニのアダージョ」でした。これもやさしくアレンジしてある楽譜によるのですが左手の伴奏が何とか出来そうに思え、これに右手をうまく合わせれば出来ると私は一生懸命練習しました。然しレコードから流れる美しいメロディーのあのムードが少しも出せません。やはり今の自分にはとても無理と云うことを悟りました。

さてそうこうしているうちに日も段々迫ってきて最終的に曲を決めなくてはならなくなりました。私は教材のテキストの中から選ぶことに決め、その中からよく耳にするドボルザークの「家

路」を弾くことにしました。この曲は本来はオーボエの曲とのことでこれをピアノで表現するにはペダルを使うと良いと云うことを教わりました。

毎週先生からここは次第に音を大きく、ここはレガートに、ここは音を出るだけのばし、ここはピアノシモに、等々本当に事細かく教えて頂きました。

大勢の人々の前でソロでピアノの演奏をするなんて半世紀以上も生きてきた中ではじめての、当日のことを思うと心配で2～3日前から変な夢を見ておりました。

さてこうして迎えた当日、私はもうなるようにしかならない、自分は初心者なのだからと開き直りました。ソロの部12番目、いよいよ私の番になりました。思いのほか落ち着いていました。弾きはじめても指がふるえないので、しめしめと思いました。ところがです。後半ごろNHKのカメラを意識した途端、手もどが狂いました。これはいけない、と日頃の練習を思い出し、つとめて冷静に弾くように心に云いきかせながら、ともかく最後のパートを弾き終えました。1分30秒という短い曲に救われました。

その後のアンサンブルは大変なものでした。すっかりあがってしまって最後のヴィブラフォンからピアノに切り換えることを忘れてしまい、先生をはじめグループの皆さんに大変迷惑をおかけしてしまいました。失敗しました。でも私にとっては大変よい経験させて頂きました。

## 「発表会を終えて」

石渡フミ子

発表会は初心者としてピアノを始めてまだ日も浅い私にとって不安でしたが、三十数年前映画「ピルマの堅琴」に感動し、印象深い曲「埴生の宿」に決めました。先生のご指導を頂きながらの練習も楽しみながら出来ました。

人前で弾くのは初めてでしたが良経験でした。

管野 繁男

今まで「音楽」と言う私の頭の中には何時も二つの言葉が浮かんできました。「オトタノシ」と書く音楽と「オト(オト)が苦(ク)」と言う「音楽」です。

でも今は違います。「オトが苦」の「音楽」がなくなったのです。楽譜が読めるようになったからです。

「もしピアノが弾けたなら！」という台詞は昔話！早く私の「ピアノ十八番」を作ってT.P.Oにあわせてさり気なく一曲！想像しただけで楽しくなります。

市長さん、この企画を御取り上げ下さいましてありがとうございました。先生はじめこの講座のためにお骨折り下さいました多くの方々どうもありがとうございました。

管野 繁男

開講式が終わって直後のことです。「すみません、ちょっと待って下さい、今まで半年お付き合いいただいて今日が最後かもしれませんが宜しくお願い

いします。」とNHKのリポーターから私たちのグループ5人は呼び止められました。丁寧に一人一人インタビューを重ねて一番最後の私のところまで来るには随分待たされたように思いました。実際にはそれ程の時間ではなかったのかもしれませんが。その間何を話そうかと言葉を選んだり、いろいろの事を思い出していました。やがてマイクは私の前に、そしてにこやかに話しかけるリポーターの笑顔に今までの緊張はすっかり消えてしまい、用意した言葉も一緒にどこかへ飛んで行ってしまいました。

そして思わず口から出てしまった言葉、「……現役時代にもまずあまり数少ない経験で、僕はとても素晴らしい宝物を得たような気がします」と。言葉遣いがおかしいのですが、思い出すと何故か身体がホッと暖かくなり、楽しくなるから不思議です。これからは「素晴らしい宝物」を大切に育てていきたいと思います。

市長さん、この企画を御取り上げ下さいましてありがとうございました。先生はじめこの講座のためにお骨折りで下さいました多くの方々どうもありがとうございました。

#### 「真っ白になってしまった私」

小林 明子

ドキドキしながら抽選会に参加、幸運にも厳しい倍率をくぐりぬけて入会、嬉しかったです。ヨーシ頑張ろうと出足は快調、ですが一生懸命レッスンに励んだかに思えた6ヶ月でしたが、アッと云う間に発表会の日がやって来てしまいました。最後まで間違いのないように弾ければと易しい曲を選んだにもかかわらず、真っ白になってしまった私はもうメタメタ。今ここで練習不足を反省しつつピアノは私をお呼びでないということ強く感じております。

でも私はピアノが好きです。より練習を重ね、にっこり微笑んで迎えてくれるピアノにお会いしたくてこれからも頑張りたいと思います。

どうぞ先生方、今後共宜しくご指導お願い致します。

柿沼 紀子

ピアノが弾けるようになったら、という軽い気持ちでの応募、くじ運の無い私があの大勢の中から選ばれてレッスン出来るとは思いませんでした。選ばれたからには一生懸命頑張らなくては

と思うものの雑用に追われピアノに向う時間が持たずあせる日々。家ではまあまあと思っても、いざグランドピアノに向い、先生グループの人たちの前で弾くだけであがってしまい間違え。もっと練習

しなくては、と気持はあせるばかり。

そしてあっという間にむかえた当日。胸はドキドキ、顔は上気し、頭の中は悪いことばかりがかけめぐり落ちつかない。いよいよ自分の番になった時にはもう何が何かわからないうちに終わってしまったという感じでした。

人前で何かをするということのない私に貴重な体験をさせていただき有難うございました。あと半年、もう少し上手に弾ける様努力したいと思います。

成田千鶴子

半年のレッスンで発表会と聞いた時はかなりの重荷でしたが、曲をマスターし、アンサンブルではクラスの人たちとの息も合い、当日はとても緊張しましたが、ちょっぴりお洒落もし、良い思い出になりました。

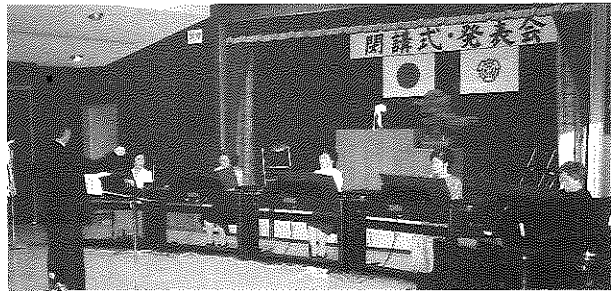
特訓のお陰で次のレッスンが少し楽になったようにも思います。近い将来孫に童謡を聴かせ、素敵なおばあちゃんと呼ばれる様頑張りたいと思います。

富永 敏子

遠い日、ほんの少しピアノのお稽古をした記憶があります。あれから何年経ったのでしょうか……再びピアノを弾く日が来ようとは！

天皇誕生日の祝日、午前中リハーサルがありました。その時音が一つ違っていたのです。先生の指摘を受けるまで判らなかつた私のなんと迂闊な事！それから下の音楽室に走り練習をしたのですが、ああ～全然弾けなくなって仕舞ったのです。どうしよう…どうしよう…本当に焦ってしまいました。どうにか軌道修正して…でも本番で正しく弾けたのかどうか、自分では判りません。ひたすら緊張して、あっという間に終わってしまいました。他の人の演奏ばかりが心に残りました。

アンサンブルは保坂先生編曲の「トトの歌」です。6ヶ月前にここで初めて知り合った5人が心を合わせて弾くアンサンブルはソロとは違った緊張



がありました。先生が指揮をして下さいましたが、慣れない生徒の指揮をする先生もまた緊張されたのではないかと思います。

半年の練習で、とにもかくにも発表会という大舞台で、しかも市長様はじめ大勢の聴衆の前で弾いたのです。よい思い出になりました。

あの日緊張して弾いたあの曲を、今は楽しく弾いています。「どんな曲でも必ず弾けるようにしてあげます」とおっしゃった先生の言葉は本当でした。

オーディションの日、「乙女の祈り」を弾きたいと乙女の頃の夢を書きましたが、この夢も実現させて頂けるよう励んでいきたいと思っています。

池山 明子

「まだ一ヶ月あるわね、大丈夫よ」「もう十日しかないわ、どうしよう」顔を合わせる度にこんな会話でした。日が経つにつれてソワソワしています、落ちつきません。今日は23日、特訓をして一寸気分が変りました。先生の一言がこんなに大きく作用するのでしょうか。当日の私は「矢でも鉄砲でも持ってこい」という訳には行きませんが、昨日の先生の言葉を思い出して何とかいけそうです。

足はカネの様につめたくな顔は真っ赤です。心で呼び笑顔をつくって「エガオダ。自分は弾けるんだ、先生が落ち着けば大丈夫とおっしゃったもの、エーイ、イケー。」

最後ドジりました。でもこの緊張感、この??感、一体何でしょう。出番は終わりました。あとは他人様の曲を聴いて、私の胸にひびくものがありやなしや?それはヒミツ。

五時近く食事会も終わり、私は晴れ晴れとしてリーラリラー(波を越えて)と口ずさみながら自転車のペダルをふみました。勿論その夜は熟睡です。これでお正月も来るこの気持はお分り頂けるでしょうか…

春が待たれます。



「ピアノが弾ける幸せ」

黒澤マサイ

老後の設計は、短期的なものとは長期的なものに分けて考えるとよいということ、何かで読んだような気がする。私がこの教室のクジに当たったのは、まさにラッキーなことでした。ピアノは長期の部類でしょう。

私は今迄この半年間ほど努力したこととはなかったように思います。ことに発表会の曲が決まってからは、毎日毎日何十回となくわずか1分30秒の曲のために練習を重ねました。思うように弾けずあせったこともあります、少しずつ弾けるようになると、練習も楽しくなり「私だってやれば出来るのだ」自信がついてきました。鈴木先生にほめて頂くと一緒にうれしくはげみになりました。

発表会の当日は、手は汗ばむし、いくら深呼吸をしても、胸の鼓動は高まるばかり、手の震えはとまらず困りましたが、終わった時のさわやかさは5才位若返ったかと思うほどでした。

良い経験をさせて頂きました。あと何年か後に、孫に弾いて聴かせたり、一緒に連弾するのが今の夢です。

先生方、ピティナの方、公民館の方皆様に感謝です。これからもよろしくお願い致します。

「エリーゼのために」に寄せて

鈴木 迪子

私とピアノの出逢いは昭和54年春43才の時、子育てもほぼ終り何か自立した仕事をしたいと思立ち保母の試験を受けることにしました。ところが保母の試験には「バイエル」104番までピアノが弾けないと資格が取れないため、大急ぎ中古のピアノを買いました。

簡単に考えて、しばらくおけいこに行きましたが、ものすごく大変で苦痛になってしまい、とうとうピアノのお

けいこも止めてしまい、結局保母の資格も取れませんでした。

子供の頂からピアノが弾けたらなんてすばらしいことだろうとずっと夢みていました。音楽は大好きでしたのでピアノはあきらめてコーラスグループに入り歌っていました。

昨年5年に50才以上対象の全国で初めての公民館でピアノを教える講座が開かれることを知り「実年のためのピアノ講座」に思い切って応募致しました。私たちのグループは6倍の人数でしたが運よく抽選に当り、6月からいよいよ始まりました。

ピアノの調律をたのみましたら高音部のフェルトは全部はげている始末、私もピアノは出来ないとおきざらしていた時でした。全神経を指に、夢にまで見たピアノのおけいこが出来るとは、なんて幸せなことか。子供のように心をはずませて木曜日がかかるのが楽しみで待ち遠しくてたまりませんでした。

「雨の日が大好きなのよ。なぜかという近所の家々がみな戸を開けてしまうから、思い切り弾けるのよ。」とお友だちに言いながら一生懸命練習しました。私は口ぐせのように「死ぬまでの間に「エリーゼのために」が弾きたいの」とよく言っていました。その曲を発表会に弾くことになった時、「無理なので変えます。」と言ったら「今やらないと一生でできませんよ。」と先生に言われ、半年間練習に勤めました。

ところが八月末突発的な出来事が起りました。心筋梗塞という思いもよらない病で主人が倒れたのです。手遅れの状態で救急車で運ばれ入院、一命は取り留めましたが、重症でしたので浦和市立病院から、再び東京都済世会中央病院（港区三田）に救急車で運ばれICUに4ヶ月間入院、その間に心臓の手術をし毎日病院通いでした。あれ程楽しみにしていたピアノ講座も休み

がちになり、何回も止めようかと思いましたが、その上自分の仕事もありましたので大変な思いをしました。先生はじめ公民館の方にも相談しました。でも講師の先生はじめ皆さんに励まされながら続けることが出来ました。本当に感謝致します。

12月23日の発表会までには退院出来るよう努力しましょうと病院の先生方も私ども家族もはりきっておりましたが、その時やっと一般病棟に移されました。主人も苦しかったでしょうが私も苦しかったのです。でも主人が聴きに来ましたら、大感激してもっと弾けなくなってしまったらと思うと泣きました。ブロークンピアノでしたが弾き終わった時、何か充実した気持ちがわき上がりました。

今思うと続けていてよかったとつくづく思います。人は歳月を重ねたから老いるのではない、56才にして発表会を経験し、ガタガタふるえながら感動し情熱を燃やした人生のページ…今が青春、今生き生きしなくていつ生き生きするのでしょうか。

自分のために一生忘れることの出来ない「エリーゼのために」という大きな財産をいただきました。

松永 房子

ピアノの発表会と聞いただけでも華やいだ気分になる反面不安もいっぱいでした。半年間こつこつ小さな積木をあぶなげに重ねるが如く、積んでは崩し、崩しては積むを繰り返してまいりました。

発表会当日は緊張の中にも楽しくリハーサルまでどうにかこぎつけるまでになり、先生方はじめ、お仲間のご指導、励ましを得て何とかなるような気持でございました。

さて本番となりますと今までやってきたことをどれだけ発揮できるかなどより、精神的な負担が大きくなり、それが自分との戦いになり大変でした。先生方は「6割が弾けたら上出来なのよ。」とおっしゃっておられました。その通りで完全になど夢にも思わないまでも、ピアノの前にすわった時はもう、胸の鼓動は激しく、腕の力はぬけ、何ともせつなくあわれな状態になりました。

弾き始めから間違え、落ち着かなければ自分に云いきかせながら、楽譜を歌いながら少し進んだかと思ったとたんまた失敗、頭の中はパニックに陥

り、譜面を見ようにも目はさだまらずと最後まで立直れず終りとなりました。これこそ真に穴に入りた心境でした。厳しい厳しい体験を致しました。最初で最後と思います。

### 「ピアノ発表会」

脇本ヒデ子

「お父さん、私ピアノ習いたい。」  
「学校の勉強もろくに出来ないのにピアノどころではない。」

高校三年の頃の父と私の会話でした。思えば引き揚げて母を亡くし貧しい生活の中、ピアノを習うなんてとんでもない事だったのです。

娘「お母さん私ピアノ習いたい。」  
幼稚園長年組の頃。途中で投げ出さないとの約束で私の夢を娘に託す様に。毎年毎年発表会のたびに娘の演奏には母親の私が息が止まるほど緊張しました。

そして40数年ぶりに私の夢が叶いピアノを習うことが出来、そして発表会。インフルエンザで寝ているも発表会のことから頭から離れず家事も手につかず、一生懸命練習したつもりなのに、当日は頭は真っ白。

娘「発表会どうだった?」「あがってうまくひけなかった。」「練習不足じゃないの、私の苦労分かったでしょう。」と報復されてしまいました。先生が弾かれた時、とてもすてきな曲だと思い頂いた曲でしたが譜面を見てびっくり。先生に左手がこんなにむずかしいのは弾けない旨申しましたら右手だけでもよろしいとのこと。でもとにかく左手も挑戦してみようと思いました。上手には弾けなかったけど挑戦する勇気と努力を発表会で得たのですから。いつかエリゼのためにも弾ける様になるかもしれないと夢と希望も持てたのですから。



今こうして感想文を書いていると四十数年前の父の胸中も分かる事ができ、ピアノを習いたかったという長いわだかまりも取れました。また夢って思い続けているといつかは叶うものだなあと思いました。

斉藤由紀子

生涯教育の中でピアノを採り上げたことが全国で初ということもあり話題性、ニュース性のあったイベントですから止むを得ませんが、カメラやテレビやフラッシュと共に人が動き、会場内がザワザワしていた発表会でなく、もっと静かな会場でお一人お一人の曲が記憶に残るような発表会でありたかったと今思います。

私達が体験したことを是非全国各地の実年の皆様にも味わっていただきたい。「簡単な譜面なら読めるようになり、その通りに鍵盤を叩くと曲になって、自分の聴覚で捉えられた時の感動!初めてピアノの学習をした者にとって、こんな素晴らしい事をなぜこの年迄知らずにいたのかと後悔しました。大脳と指先を刺激することにより、ボケや老化防止に繋がるメリットも然ることながら心豊かに日常が送れます。」というのが実感です。

文部省の企画を勇断で取り入れて下さった相川市長のセンスに感謝すると共に、ピアノ普及率全国一を誇る文京都市浦和市民であることを嬉しく思います。

青山 広子  
ピアノ発表会ではいろいろとお世話になりありがとう



受講生で唯一の男性、菅野繁男さんNHKの取材を受ける

ございました。

あっと思う間の短い時間でしたが大変緊張いたしました。手足はふるえ、風邪気味だったため鼻水はたれてきます。くりかえし弾くべきところをくりかえさず終りにしてしまったかどうか自分でわからない位あがっております。

曲目を何にするかということのむづかしさも感じました。じっくり長い時間をかけて練習しますから、少々弾けてきますと飽きがきてしまい、とてもむづかしい曲を選べば弾けないくせに、まことに困ったものです。他の方の曲がよくみえてきます。お客様の前で弾くということは度胸のいることを痛感いたしました。

発表会も終り、少々なまけてしまいましたが新しい曲にとりかかっています。お友達の弾かれたカッコワルツも弾きたいし、ハンガリー舞曲にも挑戦したいし、楽しみがいっぱいです。右手で、次は左手で、そして両手と時間はかかりますが音がひろえて、なんとなく家の者にきかせて得意になっております。

今後ともよろしくお願いします。



浦和市民中央公民館の一室で練習中